

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)

以下の2点を核として、確かな学力の育成を目指す。
 ○児童が「分かる、できる、つくる楽しい授業」を展開できるようにする。そのためには、知識・技能の定着と多様な表現を身に付けさせる。
 ○学習への興味・関心を高め、主体的に「学び続ける」児童を育てる。そのためには、読書や家庭学習にすすんで取り組む学習態度と、目的に応じてICTを活用できる力の育成を工夫する。
 また、運動の日常化と食育を含めた健康教育の充実を図り、基礎体力の向上を図る。そして安全な環境を整備し、自己、他者の命や心身を守る力を育成する。児童の自己有用感を高め、人との関わりを通して自分も他者も大切にできる態度を育てていくことができるように、児童理解につながる情報を共有し合う教職員の体制を整える。

授業改善の重点

- ①個に応じた指導法を徹底し、つまづきを取り除きながら知識・技能を定着させる。特に算数は全学年で少人数指導の体制を整えて、習熟度別に課題提示を工夫し、理解や技能の向上に努める。また東京ベーシックリールを活用し、前学年の学習内容の理解度を確認して、放課後の補習「のびのびタイム」を計画的かつ効果的に行う。
- ②自分の考えを多様な方法で表現させ、協働学習を取り入れる。「高ヶ坂タイム」を充実させ、特に月1回のサークル対話を計画的に行う。また4・5・6学年は、モジュールを活用し、国語の授業時数を十分に確保して計画的に学習を進める。
- ③主体的に学びに向かう児童を目指し、すすんで読書や家庭学習に取り組む学習態度を育てる。自主学習ノートを活用し、児童の興味・関心、発達段階に応じて課題と向き合うことができるように家庭での学習を充実させる。
- ④タブレット端末の活用を推進し、目的に応じてICTを活用できる力を育てる。ICT委員会、OJT研修を中心に、教員の研修の場を設け、教師自ら積極的に活用する。以上4点に重点を置き、「授業をデザインする8つの取組」を意識した授業計画や校内研究の充実を図り、教員全体で共有しあえるように努める。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に合わせて、理由・質問・感想を述べ際の言葉などを具体的に提示したり指導したりして、場面や目的に応じた言葉選びや言い回しを多様にする。 ○単元のはじめで学習計画を提示する。本時のめあてを明確にして児童に見通しをもたせる。 ○ミニ作文、ペアやグループでの対話を通して、自分の考えを書いたり伝えたりする場を意図的に設け、主体的に取り組めるように導く。 ○自分の考えをもちに児童に対する手立てをしていく。 ○ICT機器を活用し、場面を具現化する。また互いの考えを伝え合う活動を充実させることにより学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じて、リズムあそびや音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れ、音楽表現に必要な音程感覚やリズム感を養うことができるよう指導する。 ○歌唱および器楽の学習活動では正しい発声や基礎的な奏法の定着を図り、身に付けた技能を生かして豊かな音楽表現をすることができるように指導する。 ○鑑賞の活動では映像資料を効果的に活用し、音楽への理解を深め、関心を高めることできるようにする。 		
	社会科	図画工作科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○興味関心をもちやすく、また実感を伴って理解しやすい資料の選択や提示の仕方を工夫する。 ○見学やインタビュー活動ができる場を設け、体験を通して理解を深めたり表現する力を高めたりする。 ○ICT機器を活用することで、資料を焦点化したり、意見の共有をしたりできるようにする。また、児童が調べたり、情報を整理して考えを表現したりする場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クロームブックを活用して造形作品や写真などを示したり、映像作品を制作したりして、造形活動の興味関心を高めるようにする。また基本的な資質や能力を育むとともに、作品の主題を他教科と連携した内容にすることで他教科と連携した造形活動を行う。 ○児童同士が協働して対話をする活動を行うことで、児童が豊かに発想を広げて制作を進めていくことができるようにする。 ○友達の仕事のよさや作品に込めた思いを感じることができるように、鑑賞活動を行わせる。また近隣美術館での鑑賞活動等を行うことで、作品の価値を感じたり、歴史的意義を学んだりすることができるようにする。(第4学年) 		
	算数科	家庭科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年習熟度別の学習形態をとる。授業開始の計算練習やQubenaの活用、ノート指導など、共通事項の連携を図る。 ○各単元の前に、必ずレディネステストを実施し、児童の学力を担任・少人数担当で把握する機会をつくることで、個に応じた指導の充実につなげ、学習意欲と学力の向上を目指す。 ○ICT機器と合わせてデジタル教科書を活用することで、課題を焦点化したり、児童同士の意見を共有したりする。 ○計画的に「東京ベーシックリール」を実施して児童の理解や定着の度合いを確認し、個別指導や家庭学習で、より確実な学習を目指す。 ○「のびのびタイム」とする放課後の補習時間を設け、基礎・基本の定着が十分でない児童に対して個別に指導する。第2・3学年の対象児童に60分間、地域人材を活用して1対1の体制で指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○裁縫、調理実習等の活動を通して、作成、実習の手順の重要性や協力することの大切さを学ぶと共に、生活に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けられるようにする。 ○授業の中で児童に家庭での生活との関わりを問いかけることにより、学習したことを家庭での生活や、今後の自己の生活に生かそうとする気持ちを育む。 ○ICT機器を活用することで、資料を焦点化したり、意見の共有をしたりする。 		
理科	体育科			
<ul style="list-style-type: none"> ○観察や実験など、体験的な学習を多く取り入れることで、興味・関心を高め、自発的な学びができるようにする。観察や実験の不足分をICT機器を活用し、映像資料で補う。 ○観察記録、実験結果などのデータと現象とを関連付けて考え、自分の考えをもち、発表できる場を設ける。 ○ICT機器を活用し、児童同士の意見交換の場を充実させる。(スプレッドシートやスライドの活用、レポート作成)また、観察や実験の不足分を映像資料で補う。 ○デジタル教科書の活用により、個別最適な学習環境を整える。 ○学習のまとめにQubenaの問題に取り組む、基礎知識・技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態や個に応じた指導方法を教員全体で共有する。 ○できるようなった喜び、運動する楽しさを味わわせる。 ○ICT機器を活用し、課題の気付きや振り返りに生かす。 ○認め合い、励まし合う中で、自信をもち、粘り強く取り組めるようにする。 ○コーディネーショントレーニングを取り入れ、体力・運動能力の向上に努める。 ○授業以外に体力向上仲間を実施したり、休み時間の外遊びを奨励したりして、運動の日常化を図る。 ○持久走週間や縄跳び週間を設け、全校で継続的に体力アップに取り組み、できる楽しさを味わわせる。 			
生活科	外国語科(5・6年生)			
<ul style="list-style-type: none"> ○アサガオやミニトマトなどの栽培を通して、花や実の変化や成長の様子に気付かせ、栽培の喜びを味わったり、大切にしたりする。 ○季節の特徴に気付かせ、それを生かした遊びや身近な材料でおもちゃ作りをし、楽しむことができるようになる。 ○兄弟学級や幼稚園・保育園との交流を通して、活動の意図に気付いたり、よりよくなるための工夫をしたりして、遊びや生活を楽しく充実させる。 ○ICT機器を活用し、具現化した学びを深めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音に習って繰り返し声に出すことや、他者とのコミュニケーションを通して、発話の量を増やす。 ○読み書きの活動を授業の中でバランス良く取り入れ、4つの領域を計画的に行い、充実させる。 ○ALTとHRTの連携を深め、役割分担を明確にし、毎時間の指導をより充実させる。担任単独型の授業を積極的に行う。 ○ICT機器を活用することで、資料を焦点化したり、意見の共有をしたりする。 			

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	価値ある対話の共有	見通しをもたせる導入
	<ul style="list-style-type: none"> ○クロームブック、大型提示装置を活用し、課題を焦点化したり考えを共有したりする。 ○児童が共同して作業したり編集したりする活動を通して、多様な考えを共有できるようにする。 ○児童同士の学び合いに効果的な活用方法を教員全体で共有し合えるように、校内研究の中に位置付ける。 ○全教科において、ICT機器を活用し、深い学びを目指す。 ○5・6年の理科及び外国語、4・5・6年の算数において、デジタル教科書を活用し、個別最適な学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的やテーマを明確にして、考えたことをまとめたり、課題を解決したりする場面を設定する。 ○児童の発言を価値付け、課題解決に生かす。 ○ペア学習、グループ学習など、考えを広げたり修正したり、また自己を振り返ったりできるように、対話の形態を効果的に取り入れる。 ○月1回のサークル対話を通して、異学年と話題を共有しながら、自分の考えを伝える場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習計画を提示し、単元や学習活動の流れが見えるようにする。 ○学習への興味・関心を高める導入や課題提示を工夫する。 ○めあてを明確にして、学習することが見通せるようにする。 ○振り返りの時間まで、学習の流れがしっかりとわかるように授業計画を立てる。